

千里山への頃・二題

二十六回生 瀧 梢

(大森)

一・千里山にヴォーリズ設計の家があった!

今年の正月、近くに住む妹から連絡があった。「千里山の古くからの家M邸が近く取り壊されるらしい、それがヴォーリズの設計の家だったらいい、解体前の中を見せていただくから、一緒にいかが?」と言う。

その日、Mご夫妻は引越準備のご多忙の中、ほとんど空になったお宅を見せてくださった。M氏は、自宅がヴォーリズあるいはヴォーリズの事務所設計であることを、昨年ヴォーリズの研究者が訪ねて来られるまで知らなかったと言われる。そして、M夫人のお話から、この家が、千里山会誌十号で柿崎眞吾氏が健筆を揮って書かれたチェリスト伊達三郎家の千里山での三番めの居であることがわかった。

生来の好奇心旺盛から、後日私は円山町にお住まい

昨秋、千里山に用があり、雅子さんはM邸の前で、M夫人らしき人に「私は子どもころ、この家に住んで居たのです」と話しがけられた。初対面だったにもかかわらず、M夫人は「ぜひ中に入ってください」と家に招き入れられた。M夫妻はM氏の父上の「この家は勝手に触らないで、このまま住むこと」という命で、伊達家が住んでおられた昭和十二年〜十七年頃当時の状態のまま使っておられた。雅子さんは、子ども頃とほとんど変わらないかつての我が家を見て感激し、M夫人と手を取り合って涙した、とのことである。

玄関前のポーチと玄関内の床の幾何学模様の色タイルは近江八幡にあるヴォーリズ設計の住宅のタイルと寸分ちがわぬものらしい。玄関を上がった板の間の上に吊り下げられたランプシェードは白地に花模様の工芸品。左の応接間にはタイル張りの暖炉と作りつけの立派な書架があった。南側に上下に開閉する窓がある。この窓こそ、若き日のマエストロ朝比奈隆氏が勝手に潜入して来られた窓だった。(先の写真と、会誌五号五十四ページ「朝比奈隆先生と千里山」小川雅子氏執筆参照)

の伊達氏の次女、小川雅子さん(十三回生)を訪ねることになった。その昔、お母上のシズ先生に少しの間ながらピアノを習いに行っていた私にとって五十年ぶりの円山町のお宅訪問であった。雅子さんとは初対面。こちらはグレース幼稚園で催されたお父上のチェロ演奏の前座(だったそうです)の雅子さんの歌われるのを、子どもの頃聞いた記憶はある。雅子さんは私の実家のことをよくご存知だったので、あつかましい申し出にも応じてくださった。



伊達葉子・雅子さん姉妹



伊達シズ・葉子・雅子さん母娘

奥には広い和室が二間つづいており、南側にその二間分の長さのサンルームがある。(右の写真参照)たしかに、日本家屋の縁側よりもっと広幅である。その他端々に丁寧な意匠が見出される。

二階への階段の手摺にもカーブのあるさりげない彫りが施されている。二階の床の間のある和室は完全に

和風であるが、階段を上りきった突き当りから外のベランダに出られるようになっていたようだ。

実は、筆者が育った家も二階に広いベランダがついており、和室から出られるようになっていた。この建売と思われる住宅と同じしつらえの家は、私の知る限り今も一軒残っており（会誌十号の口羽龍二氏撮影の熱田邸、現在空家、いつ壊されるか風前の灯です）、昭和モダンの面影を残している。

閑話休題、再び小川稚子さんのお話に戻る。「両親はこの家がヴォーリス設計の家ということは知っていたようです。小学校一年でこの家に住んだときは新築の家ではありませんでした。庭に藤棚があり、今でも藤の花をみると、あの家の藤棚を思い出します。」

昭和十二年頃に新築ではなかったということは・・・現在も存続している一粒社ヴォーリス建築事務所を見ると、大正十一年（一九二二年）に大丸百貨店大阪店、大阪教会に始まって、昭和二年に京都大丸、昭和四年に関西学院大学、七年に同志社アーモスト館、昭和八年に神戸女学院と京阪神間の作品作りが続いている。しかも、大正十二年には「住宅設計に関する講演記録」吾家の設計出版、大正十三年には「吾家の設備」

二二 電線・電柱の無い千里山を

まず、下の写真をごらん下さい。日本のどこにでも見られる大都市近郊の町なみ？そう、千里山駅から噴水に向かっての道です。残念ながら、千里山と同じ頃、同様にイギリスの田園都市の構想で開発された東京の田園調布の、今も亭々とした銀杏並木のある町なみとは比べることもできません。

生まれ育った千里山を離れ、十年目に戻ってきたのは昭和五十一年の秋でした。子どもの頃は気になった記憶が無いのですが、久々に駅前立った時「空が狭い！」と感じました。昔より建物が高くなっただけでもありますが、空を覆わんばかりの電柱と電線のためでした。

以来、この電柱・電線何とかならないのかと、自ら積極的な働きもしないまま、思い続けておりました。会誌四号の私の拙文のなかにも「電線・電柱の無い緑陰濃き落ち着いた街になるよう勤めねば」と記しておりました。

大方の千里山の道は狭いので、コンクリートの電柱が道幅を狭め、電線が空を汚しております。

出版と住宅を多く手がけた結果も残している。ヴォーリス研究者ならずとも、千里山の家が千里山住宅開発直後の注文建築だったであろうことは推測できる。

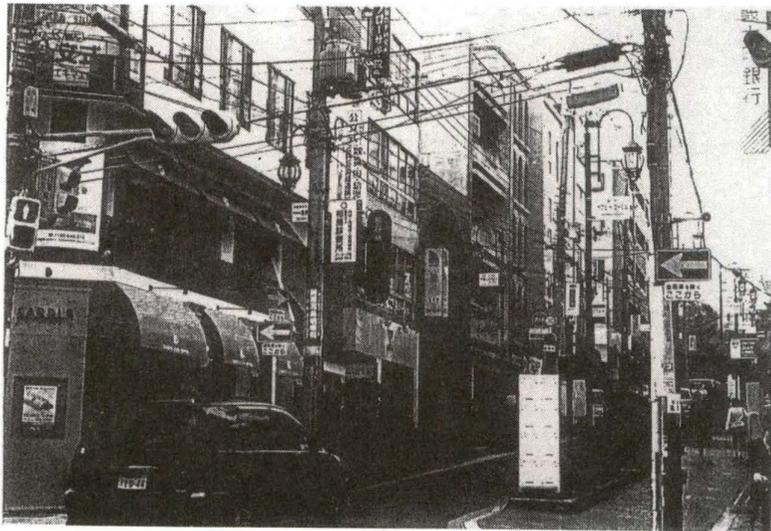
口羽氏が会誌十号で写真と記事にしてくださいとされている昭和モダンの住宅も今は数えるほどになってしまった。あの写真の中にはなかったが、大阪歴史博物館に昭和初期の応接間としてミニチュア模型にして展示されているお宅もまだ健在である。屋内の部屋が大阪府の文化財に指定されている岡田邸もある。それぞれのお宅にそれぞれの語るべき歴史があり逸話があるだろう。単なる「懐かしむ」だけではない、社会学としての千里山住宅の何らかの記録が残されればと思う。

参考

ウイリアム・メレル・ヴォーリス（一八八〇—一九六四） アメリカに生まれ、建築家をめざすも、外国伝道を志し、明治三十八年英語教師として来日。

その伝道生活は近江兄弟社と発展する。明治四十三年から建築設計活動をはじめ、作品は戦前だけで一、五〇〇件あまりある。

この稿を著すにあたり、小川稚子さんより貴重なお写真を提供していただきました。厚く御礼申し上げます。

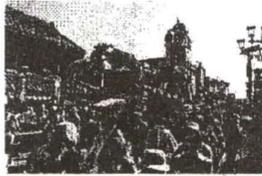


阪急千里山駅から噴水方面を見たところ
写っておりませんが右端が交番です。

◇無電柱化のメリット

街の景観向上

電線・電柱が無くなることで美しい街並が形成され、住宅地域の活性化につながります。さらに**資産価値の向上**も期待できます。



安全快適な

生活空間の創造

地中化により車幅・私道が広く使え、車等の出し入れがスムーズに。また、電柱を登り部屋に侵入される危険性もなくなります。



災害に強い街

災害時の電柱転倒による家屋の損害、電線類の垂れ下がりなどによる事故・その他危険な要素を取り除けます。



自然公害を軽減

電線・電柱等に集まる鳥が落とすフン害や犬のマーキング等が無くなり衛生的になります。



集客効果

無電柱化の街が全国に増えつつあり、**集客面でも好題**です。



電磁波低減

電線やトランスから出る電磁波は、地中に埋設することで低減される**ことがわかっています**。



昨年、千里山まちづくり協議会が流してくれた情報の中で、「電線のない街づくり支援ネットワーク」というNPO法人が大阪で立ち上げられたことを知りました。これだと感じ、早速設立の会に参加し、その後の何度かの研修会で多くのことを学びました。

電線類地中化はする気になれば勿論可能。欧米の主要都市はほとんど無電柱化されている。日本でも明治の初め少し電線埋設されていた。しかし敗戦後、低廉供給できるので架空供給になってしまった。最近では日本でも新しい住宅開発には電線地中化の多くの事例がある。また、古い歴史的な町並みも電線地中化に伴う広告・看板の撤去により、景観がよくなり、観光客が劇的に増えた（伊勢市・彦根市など）。景観の整備のために、現在はさまざまな法律制度、助成制度、支援策もある。要はその地の住民、自治体にやる気があるかどうかと言ふこと。等学びました。掲載図はセミナーの一つで示されたものの一端です。

図表は全てNPO法人「電線のない街づくり支援ネットワーク」理事井上利一氏のセミナーで発表されたものです。発表者のご了解を得てここにパワーポイントで使われたものの一部を載せます。

◇なぜ日本の電柱は無くならないか？

電力会社が**電柱を無くそう！**とっていないから。
 通信会社が**電柱を無くそう！**とっていないから。
 不動産会社が**電柱を無くそう！**とっていないから。
 地方行政が**電柱を無くそう！**とっていないから。
 国が**電柱を無くそう！**とっていないから。
 日本人が**電柱を無くそう！**とっていないから。

もし思っても、**行動していないから。**

だから電柱は無くならない！

◇日本の電線事情と、その歴史

	1800年代	1800年末	1945年～	2007年
ロンドン	世界の先進国、犯罪対策にガス灯設置、電灯と競争			
	地中化	地中化	地中化	地中化
ニューヨーク	南北戦争、エジソン蓄音機発明、電線だらけ、感電死者多数	非常に危険ということで埋設することに		
	架空線（裸線）	地中化	地中化	地中化
日本	江戸時代から明治時代へ	WW I 後被覆技術向上	敗戦焼け野原、安定・低廉供給第一	架空供給が標準
	架空線が出始める	架空線（一部地中化）	架空線	架空線

ちょうど、千里山駅東側の古い公団住宅建て替えに併せての駅東側地域整備の話し合いが吹田市と住民の間で持たれており（会誌十号、九十七、九十八ページ参照）、それが済めば駅西側の整備の機会も巡ってくるとかで、当然駅前から第一噴水にかけてのメインストリートの電線類地中化の予定もあるときいていました。が、実際は何故か話がなかなか進んでいないようです。もつと景観や電線類地中化の世論を高めねばならないのですが、そもそも、そんなことは気にもなっていない人もおり、誠にはがゆいことです。

毎日入る新聞の折込のチラシには、不動産屋が「よき環境の千里山」と売り込んでおりますが、やってくることは環境破壊ばかり。皆して景観をよくするところぞ、その地域の価値をあげ、住みたいまちづくりをすることになるという認識を誰もが持つてほしいものです。